アドベンチャーレース参加記

村越 真

オリエンテーリングの兄弟分ともいえるアドベンチャーレースのレースが日本でも増えてきた。
これまでも八ヶ岳トレイルフェスタなどでオリエンティアが活躍していたが、今回王滝村での大会に村越と田島が初挑戦！

マウンテンバイク（MTB）やカヌーを使って大自然の中をナヴィゲーションしながら、数百キロ離れたゴールを目指す。それが、レイド・ゴロワーズに代表されるアドベンチャーレースだ。その壮大さにはロマンを感じるが、数日間のレース、用意しなければならない数々の装備・・・。本格的なレースは、「ちょっと試しにやってみよう」というわけにはなかなかいかない。

しかし、日本では、そんな本格的なレースはほとんどなく、その多くがせいぜい2日がかり、1日で終わるレースも少なくない。

トレーニングの量を増やせば、故障も心配になる。走るだけじゃなくて、筋力トレーニングや自転車も取り入れたい、そういうクロストレーニングの動機づけとして、日本のアドベンチャーレースはうってつけである。昨年、初出場にして2位となって味を占めた？田島利佳から誘われて、アドベンチャーレース初挑戦となった。

▲カヌーへのトランジットでキャメルバックから給水する田島利佳

アドベンチャーレース
スタートにて。

初挑戦に
田島利佳、
村越とも
緊張気味？

最初に予定していたのは、8月末の北アルプスアドベンチャーであったが、世界選手権まで半月で、故障や怪我も心配だったので、7月の王滝村でのレースに参加した。このレースは本レース（80km）の前日に、30km のビギナー向けのレースも開催されており、その点でもトレーニングの目標にうってつけである。ビギナークラスというのも気が引けたが、1度だけは許されるだろう（自分の気持ちを）ということで、出場を決めた。

種目はMTB、ラン、リバートレック（沢下り）、そしてカヌーだ。昨年の北アルプスでは、利佳ちゃんはくるくる回ってばかりで全然進まなかったというのが不安だが、それも今回はタンデム艇なので、なんとかなるだろう。MTBも買って1月だが、自転車はこれまでも乗っていたし、7月の八ヶ岳で自信もつけた。王滝はナヴィゲーションの要素が全くないというが、まあ勝って当然だろう。

「勝てるんじゃないですか」と善徳にも言われ、自分でもそのつもりだが、初めての競技というのは、やはり不安もあれば、ワクワク感もある。スタート時には、どこまでできるか見当もつかず、後ろの方からスタート。そのためレースの全貌が見えなかったことが最後まで響いた。トレイルランでは、先がみえず、ひょっとしてトップと思い、ペースアップも鈍りがち。その後のリバートレックは、岩がちな沢を約3kmほど下る。不整地の移動はオリエンティアの得意技。微妙なルートチョイスが大きなタイム差を生み出し、前半だけで5チームを抜けた。

その後のカヌーでも、先行する混合のトップチームは真っ直ぐ進めず蛇行しながら進んでいくのが見えた。次第に追いつめたのだが、こちらもしばしばドリフトしてしまい、追いつめながらも抜くことができなかった。最後のMTBは同時にスタートしたが、最後の登りでちぎられる。このチームの女性は、フィットネスのインストラクターとのことだったが、トライアスロンもしているらしく、パートナーの男性よりも強いくらいだった。

リバートレックの時点で、上位との時間差を分かっていたはずなのに、ちゃんと認識していなくて、追撃モードになっていなかったのが悔やまれる。カヌーのドリフトの問題も、前から気づいていたのに、その時に解決を図っていなかったつけが現れたと思うと、これも悔しい。結局勝負結果というのは、関係ないように見える一瞬一瞬にどれだけ真剣になれるかの総和なのだ。遊びのつもりに火がついてしまった。

（村越 真）